

週報

こひつじ

第39巻 36号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

生まれつきの盲人

その三 不幸がもたらすもの

不幸の原因はわからないけれど、しかし、それは不幸なことだった。目的ならわかるとイエスは言われたろうか。

ではその目的とは何か。不幸はわれわれに何をしてくれるだろうか。

第一に、神に向かわせてくれる。もし何の苦しみもなかったなら、われわれは神を求めたろうか。私は、家の事情で大学進学はあきらめ、費用のかからない電波高校に進んだのだが、入ってすぐに、それが失敗だと知った。

電気の勉強は、私にまったく向いていなかったのだ。私は後悔した。目の前が真っ暗になった。

くしてくれる。

何の苦しみもなかったら、私は享樂にあけくれ、人生について真剣に考えることもなく、したがって軽薄な人間になっていたことだろう。

金属が精錬されていっそうその輝きを増すように、私たちの人生も試みを通して輝くものとなるのではないか。だから詩篇の記者は言う。

「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました」(詩篇 一一九の七一)

第三に、不幸は、人を慰める働きへと私たちを導いてくれる。もし何の不幸もなかったら、私たちは人の痛みのわからない、冷たい人間になっていただろう。あるとき妻に、こんな質問をした。

「ところで、君に聞いてみたいのだけれど、ぼくたちが、イエスさまのもとにゆくとき、心に慰めを感じるのなぜだろうね」

妻は即座にこう答えた。「それはね、イエス様が悲しみの

人で病を知っていたからですよ」

いわゆる幸福な人からは、人が慰めを感じることはないだろうと彼女は言うのである。そのとおりだと思う。

もし私の説教によってだれかが慰められたなら、それは私が苦しみの中で神を求め、神に慰められたからである。人はだれも自分が神から慰められた以上の慰めを人に与えることはできないのだから。そこでパウロは言う。

「こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです」(二コリント一の四)

このように不幸は不幸だけに終わらない。それを正しく受けとめるなら、自分にも人にも多くの益をもたらすのである。

いやこう言っつてよい。人類のこともよいものは、悲しみや不幸から生まれてきたと。

だから不幸が襲ったとき、なぜ、このようなことが起こったのかと原因をさがすことはやめたいと思おう。むしろこの不幸を通して、神

は何をなさそうとしておられるのかと聞きたい。

そのとき神はいつも私たちの想像を超えたことをなさるだろう。

苦しみと想っていたことが喜びになり、暗闇と想っていたものが光となり、見えなかったものが見えるようになる。そしてあの目を開かれたかつての盲人とともに私たちは言うだろう。

「私は盲目であったのに、今は見える主の配慮と計画があることを信じて、私は明日も生きていきたいと思う」と。

（終）

坂田さんは、早い時期にコロナにかかり、持病もありましたから、回復には時間がかかりました。その苦しい体験を通して学んだことを、こう表現されました。

この地上の出来事の背後に、大いなる主の配慮と計画があることを信じて、私は明日も生きていきたいと思う」と。

今日の礼拝

第一礼拝は午前10時から、第二礼拝は午前11時から。

教会学校は午前10時からこひつじ館で。

説教は米村牧師。

先週の礼拝

第一回目の「説教者の云」を、

司会は西岡潤也さん、奏楽は西岡なおみさん。

者の成長のためにお祈りください。今回は一〇月一日です。

案内

『現代に生きるイエスの教え』と題する新しい本ができました。マルコの福音書からの説教をまとめたものです。米村幸子さんの証も載せられています。定価は一冊七〇〇円ですが、教会ではいつものように五〇〇円で販売します。

○大津少年少女合唱団の定期演奏会は九月二十四日（日）午後二時開演。会場は大津町文化ホール。入場は無料です。

○ユースキャンプは一〇月八日（日）阿蘇YMCAで行ないます。ゲストは日野教会（東京）牧師、岩崎義幸さん。九月十七日はそのためのバザーを開催。

牧師身辺

九月になり、朝の散歩がだいぶ涼しくなりました。五時前に家を出ますから、しばらくは星を仰ぎながら歩きます。東の空にひと

わ明るく輝く金星がきれいです。八月二十四日に、東京から長男耕一家族がやってきて一週間滞在しました。朝食は、いつものようにぼくの仕事です。急に大人数となり、慣れないぼくは、何をどれくらい準備したらよいか、戸惑うこともありました。

一週間は長いと思っていました。彼らが去ると、毎朝、食卓に並んでいた六枚の皿が元の二枚に戻りました。何だか殺風景です。急にさびしい気持ちになりました。にぎやかだった食事の中の会話もなつかしく思われます。

ぼくたちの年齢を考えると、孫たちが喜んで訪ねてくれるのも、もうしばらくのあいだです。

「だから今、できるだけ後のことをするのよ。そうでないと後悔するのだから」

そんな妻ですから、孫たちにとつては、彼女はえらい、えらいおばあちゃんなのです。

牧師のメールアドレス。

yonemura@ja2.so-net.ne.jp